

## やまなし未来会議 会議録 (平成29年度第1回会議)

日 時 平成29年7月19日(水) 午後1時30分～3時40分

場 所 山梨県庁別館3階「正庁」

出席者

- ・ 委 員 (50音順)  
岡本委員、河村委員、竹内委員、田中委員、辻村委員、土屋委員、中込委員  
萩原委員、古屋委員、楨田委員、望月委員
- ・ 県 側  
後藤知事(議長)、柵木副知事、赤池公営企業管理者、市川総合政策部長、  
立川県民生活部長、岡リニア交通局長、鈴木総務部長、茂手木防災局長、  
小島福祉保健部長、保坂森林環境部長、小島林務長、宮澤エネルギー局長、  
佐野産業労働部長、樋川観光部長、大熊農政部長  
中澤県土整備部次長、若林教育次長、  
(事務局：総合政策部)三井次長、藤森技監、塩野政策企画課長、  
石寺リニア環境未来都市推進室長、広瀬地域創生・人口対策課長、  
田辺政策主幹

会議次第

1. 開会
2. 委員紹介
3. 知事あいさつ
4. 議事  
(1)「山梨県まち・ひと・しごと創生総合戦略」の効果検証について  
(2)リニア開業効果の全県波及に向けた取り組みについて
5. 閉会

内 容

1. 開会  
司会：市川総合政策部長
2. 委員紹介  
第二期委員による初めての会議のため、委員の紹介(50音順)を行った。
3. 知事あいさつ(要旨)  
(後藤知事)  
皆さん、こんにちは。  
大変お忙しい中、皆様方にはやまなし未来会議の委員に御就任をいただきましてあ  
りがとうございます。

1期目はいろいろな経験、また専門性を重んじた委員の先生方に「まち・ひと・しごと創生総合戦略」や「ダイナミックやまなし総合計画」、いろいろな基本的な計画の方向性、また内容について御議論いただいた。

2期目にあたり一番特徴的なことは、1期目は2名だった女性の委員が、15人中5人と、3分の1を占めていることである。女性の視点というものを従来以上に強化しながら、今日も2つ目の議題の中で御議論いただきたいと思っているリニア開業の効果をどう全県に波及・裨益をさせるかという視点について、男性だけではなく、特に女性の皆様方が中心になって方向性を出していただきたいという思いを込めているので、是非御理解と御協力を賜りたいと思っている。

1期目は総合計画、総合戦略において、62の計画の策定・見直しということも併せて行わせていただいた。当然のことながら、山梨の主要課題の一つは、人口減少問題である。これからの地域のあり方、そして山梨県全体のあり方というものを、どういう形で全県において目標を共有し、また、その課題克服に努力をしていくか。計画はできていても、その内容が実績を伴わなければいけないということは言うまでもない。

P D C Aサイクルにより年度ごとに検証しながら、その課題をきちんと捉えて、新しい施策を打ち出しながら、また変化やニーズに応じた対応をするということで、今日の一番目の課題である「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の効果検証においては、まさに中間地点での検証と評価をしながら、委員の先生方に現状の御理解をいただくとともに、これからのあり方のヒント、方向性というものを御提案いただければ大変ありがたいと思っている。

今、若い世代が山梨県でも頑張っている。特に特徴的な部分では、中学生の平野美宇選手。この間の世界卓球選手権においてもシングルスで48年ぶりの日本勢のメダル獲得を成し遂げた。まだ本当に若いので、3年後の2020年東京オリンピックも当然視野にあると思うし、やはり見るたびに頑張っている姿は、子どもを持つ親として、自分の子どもならここまでできるかと思う反面、もっともっと元気よく頑張ってもらいたいと思う想いは、多分私だけではなく、委員の先生方も同様だと思う。

特に、2020年のオリンピック・パラリンピックに向けて、事前合宿というスポーツ交流を基軸にしながら、交流人口をどう増やしていくのかという視点の検討も現在進めているところである。先週までフランスに3日ほど行ってきたが、今、フランスを中心に様々な事前合宿が決められつつある。非常に嬉しいことであるし、またそれを一過性の、2020年だけではなく、2020年以降にどう生かすのか。まさに魅力をどう伝えていくかの「対」の言葉になるかもしれない。

様々な魅力説明会というものも、大所高所で行わせていただいているが、改めて山梨というのは、果物・ワイン・日本酒などの多くの特産品がある。また、自然景観や水というものも大変優れているし、実は今日の午前中、自転車連盟の皆様方から、コース設定も一部検討されているようであるから、ロードレースを是非山梨で実施できるよう頑張ってもらいたいという要望もいただいたところである。

いずれにしても、私達自身が気付いていない様々な山梨県の魅力というものを、特に、県外から来られている委員の先生方には、是非もう一度私たちに認識させていた

だきたい。また、それを専門性ある県内の委員の先生方に磨いていただきたい。これから5年後、10年後、特に今年はリニアの開業まで10年という節目の年で、様々な整備計画や方針が作られつつあるが、やはり最後は官民あわせ、山梨のみんなで協力しながら、力を最大限発揮して、山梨の魅力ここにありという形で、定住人口や交流人口の増加につなげていくことが肝要だと考えている。

そのような思いを込めながら、2期目にあたる先生方におかれては、本当にそれぞれ仕事のお忙しい中、快く委員を引き受けていただいたことに重ねて御礼申し上げながら、今日の2つの大きな議題について皆さん方から御意見、また御提言をいただくことで、より良い形で県政が前進できることを心からお願い申し上げながら、冒頭の挨拶にさせていただきたい。

今日はよろしく申し上げます。

#### 4. 議事

議長：後藤知事

(1) 「山梨県まち・ひと・しごと創生総合戦略」の効果検証について

議題(1)について、資料により事務局から説明し、次のとおり意見交換を行った。

説明：広瀬地域創生・人口対策課長

(後藤知事)

ありがとうございます。

今、広瀬課長から効果検証についての御説明をさせていただきました。

最後に説明があったように、若年層をターゲットにした転出者数の減少、転入者の増加対策と、合計特殊出生率の増加対策という2本をこれから重点的に取り組むという説明も併せてさせていただきました。

先生方からは、この点だけでなく、多様な観点から既に御指摘を受けている。そこで、大変恐縮であるが、私から指名させていただくので、総合戦略の効果検証という部分に限り御意見を賜りたい。

それではまず岡本委員から、よろしくお願ひしたい。

(岡本委員)

まち・ひと・しごと創生総合戦略、効果検証についてであるが、資料1の2ページからちょっとコメントしたい。

まず資料1の2ページの1番、これは雇用ということで、雇用の場の確保としては順調であるということであったが、一方、県内企業の側から見ると、それぞれ深刻な人手不足に悩んでいる。雇用する側から見ると、相当、今人手が不足しているということであるので、そこにも目を向けて、企業からみた雇用対策というところにも力を入れる必要があると感じている。

それと、今話したことと関係するのが、その下の2番の人材である。説明にあったように、20歳から24歳の若者が、県外に主に就職のため出て行くということであるが、彼らの生の声を聞いてみると、山梨には就職する場所が少ないからとか、選択肢がどうしても絞られてしまうからという声を聞く。一方で、企業は新卒の人を取りたくて仕方がないということで、非常にミスマッチが起きている。出て行く若者たちが十分に県内企業を知り、選択肢に入れた上で東京を選ぶなら仕方がないが、県内にも優良な企業がたくさんあることを知らないで東京に行っているのであれば、もったいない。したがって、学生と企業の、より効果的なマッチングに力を入れていく必要があると思う。

具体的に、今、個人的にこれは面白いと思っているのは、未来計画研究社、COC+の取り組みであるが、そこでやっている山梨企業研究とか、フューチャーサーチ、やまなし合同JIBUN説明会など、非常に学生と企業が生の声をお互いに交換できるというものがあるので、そういうものをより強力に推進し、企業の側にも関心を持ってもらったらどうかと感ずるのが1点目である。

もう1点。よく聞くのは、県内にいる学生にはPRできるが、県外に出てしまうとなかなか就職情報等を伝える場、機会が少ないということ。これはある親御さんから生の声を聞いたものであるが、その方のお子さんが成人式に出た時の話である。実は成人式のタイミングというのは、まさに今から就活を始めるとか、県外に出た方が戻ってくるチャンス。そういう方々が一気に県内に戻ってくるチャンスである。にもかかわらず、本当に町単位で教育委員会の方がやっているのかもしれないが、その成人式では、式次第の紙切れ一枚しか配られなかったとのこと。どうしてこんなチャンスがあるのに、県内の良いところとか、就職について、ここを見れば、サイトを見れば分かるとか、そういうことをもっとPRしないのかという意見もあり、成人式をもっと活用されたらどうか。というのも、今、県の施策としてやまなしで暮らす魅力発信事業ということで冊子を作ろうとしていると思うが、そういうものを成人式のタイミングで配付したらどうかというのが2点目である。

最後、もう1点。若者の定着ということを考えて時に、昨日、たまたま県内のある高校に若者の生の声を聞きに行った時のこと、彼らは9人いたが、そこで「あなたたちの中で県内に就職したい人、県外に出たい人」と聞いたら、半分が県内希望だった。その時、「どうして県内に就職したいのか」と聞くと、その理由が、ほとんどの人は、「山梨が好きだから」「自分の住んでいる所は都会より環境が良くて水も空気もきれいだから」と答えた。したがって、施策の中にもあると思うが、郷土愛とか、山梨の良さというものを十分に伝えるということは、若者を県内に就職で残すという十分な理由になり得るということ、昨日改めて確信してきたので、その辺りもより強力に進めていったらよいと感じている。

(竹内委員)

私は、昨年の第1回の会合も出させていただいて、その際にいろいろな意見があったけれど、今回のこちらのプレゼンではそれらを取り入れていただいて、資料も随分と見やすくなった。いろいろ御苦労があったんだろうと思う。ありがとうございます。

ただ、非常に些細なところであるが、資料の見せ方について。この資料はこの場だけではなく、県内の幅広いところに訴えるのに使用するという点では、ちょっと矢印の付け方などが分かりにくい。最初に、この白抜きの矢印は一体何なんだろうかと。注のところをよく見ると、28年度の進捗率が27年度と比べて伸びていて、しかしながら当初計画比ではマイナスとか。普通に×とかにして、1年前の評価がどうだったのか、そこと比べて改善しているのか、それとも横ばいなのかというぐらいに、ある程度シンプルにした方が、メッセージを伝えるという意味では分かりやすいのかなと思った。

今回改めて、この1、2、3、4、5という大きな基本目標を見ると、それぞれが独立しているのではなく、お互いに関連している。例えば子育て環境が改善すれば、それが人の流れとして、山梨に外から若い人が入ってくる。あるいは外に行く人が減るといえることのあるのだろうと思う。そういう中で、こういう数字を見る時に、その背景にあるものを少し分析してみるということは重要だなと思う。今は、幸いなことに一頃に比べると、景気は、日本銀行の甲府支店では拡大に今転じているというふう判断している訳であるが、景気の拡大に伴っておのずと目標が実現される部分と、より深刻な構造的に流れが止まらないような部分がどうなっているのか、区別して分析する必要がある。特に思い浮かぶのは、若い女性が外に出てってしまう部分というのが、これが景気の波に余り左右されずに、コンスタントに出てってしまうところが、なかなか歯止めがかからない。こういう部分は、より抜本的な対策が必要ということであるが、そういうところの現状分析をするのは、一つ大切だろうなと思った。

全国対比で見るとということもあるが、多少地理的に山梨県と似通った県、例えば群馬や栃木など、そういう東京の近郊の県で、ある種同じような悩みを抱えている所と比べてみてはどうかということも教えてほしい。山梨よりも改善しているところがあるのであれば、どこが違うのかということ、他から学ぶということは、やってみると良いのかなと思った。もちろん私どもとしても協力できるところは協力したい。

(田中委員)

私のほうは、少し各論のようになるが、若年層をターゲットとした転入者数の増加ということで、今まであまり出てこなかったところで、外国人留学生を増やしてみてもどうかということ、少しお話ししたいと思う。

現在、県内の留学生は約千人ほどいるそうである。この留学生をもっと県内に来てもらって増やして、産業や、農業等の連携とか、あと我々地場産業のインターンシップなんか面白いのではないかなと思う。あとは留学生や若年層の外国人の起業支援など、卒業後も山梨の企業に、山梨に住んで家族を増やし、定着してもらえれば転入者の増加につながるのではないかなと思う。

今、ジュエリー業界もますますグローバルで、業界に携わる山梨に住む外国人は、インド人と韓国人が多い。組合も現在インド人の会社2社、韓国人の会社1社が加盟している。私たち各社も、今、海外進出を一生懸命やっているが、外国人の営業という立場のスタッフを抱え、海外営業もがんばってやっている。時には、本当に中国の山奥から、海外バイヤーがそれぞれの会社に来て買い付けなどもしている。組合も、

私たちのような個々の会社も、外国人との連携ということがますます必要になってきているので、国内の競争だけではなく、海外の競争にも我々も対抗できるようなビジネス人材や環境を、留学生との連携から生み出していければいい。5年後、10年後を見据えて、よりグローバルな中での戦いができればいいかなと思い、外国人留学生を増やしていくのはどうかという提案である。

(辻村委員)

私は5月に転入し、山梨を見てきて、本当に惜しいと思う。これだけのいい自然があり、最先端の企業が沢山立地しているにも関わらず、私は来るまで知らなかった。日本の皆さんがほとんどそうだと思う。施策の多くは山梨県内の方々が対象になっているが、山梨県外の人に対する施策を打ち出してはどうか。

一つは、単身赴任者に対する施策である。私は、東京に家族を残してこちらに来た。山梨は、都心からわずか90分ということで、単身赴任者が多い。単身赴任の理由は様々であるが、一番大きいのは教育だと思う。当地にもいい学校が沢山あるが、転入となるとハードルが高いので、情報や、枠がもっと緩和できれば、子どもが転校する可能性があるのではないかと思う。

もうひとつは、単身赴任者の配偶者の雇用。同種の仕事は、都会にも山梨にもあるはずであるが、外から来ていきなり就職するのは難しい。そうした雇用の情報があると配偶者も転入できる。一旦来てしまえば本当に素晴らしい所なので、すぐに好きになるのではないかと思う。

単身赴任者が山梨から転出される時に、「ここに家を造りたい」と言っていたり、転出後も週末に山梨に遊びに来る人も多いので、家族ぐるみで転勤すれば、その中に定住する人が必ず現れると思う。

もう一点、都会の小・中・高校生の第2の故郷を目指すのはどうか。例えば、小学生の時に林間学校で、中学生の時にスポーツ体験で、高校生の時は勉強合宿で、山梨県に3年に一度ずつ来ると、一番多感な10年間で3回も山梨県に来ることになる。ほとんど里帰りである。こうして10年間たった方々が大人になると、「山梨が心のふるさと」になるのではないか。

東京都内の各自治体は、林間学校とか、体験とかを姉妹都市などの関係で決めているのだろうが、山梨県内の27自治体が、県のリードの下、一斉に誘致の動きをしてみると変わるかもしれない。首都直下地震、首都圏大水害に備えて、いざという時にまとまって避難できる場所を東京都の各自治体は求めている。普段は体験学習などで受け入れるが、災害時には学校単位で避難を受け入れるという、安心・安全と教育をミックスして、東京23区に呼びかけ、それが実現すれば、子ども達が大人になった10年、15年、20年後に、非常に効果が出るのではないか。そのくらい長期的視野で東京との結び付きを検討すると良いのではないかと思う。

(土屋委員)

私は生まれも育ちも、実は関西で、こちらにお嫁に来るような形で山梨県人になった。仕事をしながら子どもを産み育ててきて、本当に山梨県の子育て環境の恩恵に非

常に受けていて、私どもの同級生とか、友人とか、皆さん大阪とか、神戸とか、東京とか、都会で子育てをしている人には本当にうらやましがられている。

私のほうからは、やはり転入者というところのポイントであるが、特にUターン。若者の転出ということは非常に問題にはなるかとは思いますが、しかしながら非常に優秀な高校生や大学生が東京など他の地域の優秀な大学、あるいは大学院、あるいは企業に就職して、さらに自分の実力を高めていくことは、県にとっては非常に財産になるのではないかと思う。ただそれが行ったきりになってしまうのではなく、何とかUターンにつなげるということとセットで、転出ということは若干目をつぶるということもありなのかなというふうを感じる。

私はワイン業界にいるが、ワイン業界、経営者についても、それから従業員についても、ワインを作る醸造現場にいるものについては、その多くが県外の大学とか、もっと言うと海外の大学などで特別なスキルを身に付けて、県内で活躍している。ワインということに興味を持って、県外から優秀な方々も働きに、就職してこちらで家族を持っている方もたくさんいる。農業についても同じで、ワイン用のブドウの栽培についても、そのようなところがある。またサービスをするほうで、ワインのサービスとか、それからワインツーリズムなどの企画とか運営をする方についても、その多くは、山梨県出身の方で、一旦県外で専門の仕事をして活躍された方たちが戻ってきて、問題意識を持ったことから生まれたという経緯もある。

なので、非常に難しいことかとは思いますが、優秀な県内出身者がUターンしやすい環境とか、それに伴うような情報発信みたいなことも非常に有効ではないかと思う。具体的には、県内にUターンすると返さなくていいような優秀な学生に向けての奨学金の制度とか、それから専門性を生かした仕事を県内に戻って行うための、例えば就職、ヘッドハンティングみたいな形の就職。それから起業される場合の起業に対する何かの支援みたいなことということが考えられるかと思う。

また、先ほど岡本委員の方から未来計画、ちょっと私よく存じあげないが、さまざまな、おそらく学生に向けて、それから山梨の就職であるとか、情報発信ということは現在なされているかとは思いますが、それを受け入れる、受け取る側のほうの情報というのはそれほどないような気がするので、例えば山梨県出身者の大学生であるとか、若い方たちを中心としたネットワークを作って、そちらに向けてさまざまな情報を発信して、郷土愛みたいなものをつなぎ止めるみたいな形で、何か工夫ができるのではないかなと思う。今、県外に非常に優秀な子どもたち、若い人たちが外に出ているということを山梨の財産と考え、何とかもう一度戻ってくるような取り組みができればなというのが私の意見である。

(中込委員)

私も現在3人の子育てをしながら仕事をしていて、子育て支援等、数年前に比べてとても充実していることを実感している。ただ、今回の資料にあるように、課題のある分野として20代女性、若い女性の県外転出というところは、今回の検証結果にもあるし、また自分の身の回りを見てもとても課題と感じている。若い女性が働きやすい職場を求めるといって、やはり東京圏と考える人がとても多い。特に女性の管理職

への登用や子育てとの両立支援などは県外企業ももちろんさまざまな取り組みを行っているが、やはり自らの能力を生かすためには東京へ行かなくてはとか、将来、出産後の働き方の選択肢としてフレックス制やリモートワーク、託児施設などの整備は都市部のほうが整備されていると考える女性は少なくないと思う。

子育て支援のところの分野にもつながるかと思うが、やはり女性が働きやすい職場環境の整備がなければ、若い女性の転出抑制はできない。具体的にはどのような企業がどのような取り組みをしているかというのを、やはり女子学生に知ってもらい、そういう場を設けていく必要があるかと思う。就職情報誌等にも、うちにはこういう制度がありますというところは書いてあるところが多いが、制度だけで実際に活用されているのか。どれくらい、例えば育休の取得実績があるのか。リモートワークと言っても具体的にどういうことを自宅でやっているのか。そういった具体的なところまで学生に知ってもらっていくところに、女子学生の山梨就職という選択肢も広がっていくと思う。

#### (古屋委員)

私は山梨で生まれ、そして大学時代の4年間を除き、その後もずっと山梨に住んでいる、山梨大好き人間である。そして、この資料を1から5まで読んで、いろいろ思うところがあったが、特に今は教育関係について思ったことを述べたいと思う。

未来を拓く子どもの育成、これで山梨では学力も体力も平均値より少しずつ上回るようになってきたと書いてあるが、私はもっと荒療治が必要ではないかと思う。福井県、秋田県は、常に体力も、そして学力もトップである。そういうところに、多分県議も、県の教育委員の方も視察には行っていると思うが、その結果があまり公表されていないなど。平均値だけ、平均値よりどうだった、ちょっと上回った、今年は少し下だったということを公表するのはすごく無難だとは思いますが、もう少し秋田のこと、福井のことを皆さんにお知らせして、家庭や地域の教育力の向上につなげたほうがいいのではないかと常々思っている。

そして、あと山梨県庁に電話をするとオルゴールが流れる。この中で山梨県の歌を、小学校の時に歌ったことがあるのは私だけかもしれないが、いかがでしょうか。山梨県にはすごい、すばらしい歌がある。そして愛唱歌もある。長野県とか、群馬県に行くと、みんなことあるたびに県の歌を歌っている。私、数年前に山梨県の教育委員をしたが、その頃からずっと私はそれを訴え続けてきたが、採用されることがなかった。

そして国体の壮行会に行っても、必ずこの山梨県の歌は歌う場面があるが、並んでいる、国体へ参加する若者はだれ一人歌えない。こちら側にいる知事さん、そして私、あと県会議員の方たちはその歌と一緒に歌えるが、若者が全然歌えない。これは私、是非山梨県の歌、すばらしい歌なので、県庁に電話をかければあの音楽が流れるのに、なんでみんな歌を歌えないんだろうってずっと思っていた。そのへんをどうかよろしくお願いしたい。

それとあと若者の流出についてであるが、うちの子どもも2人とも高校まで山梨だったが、大学で東京に行き、そのまま東京に就職し、そして結婚をし、ちっとも山梨には帰ってこないようになってしまった。甲府市の場合は、最近、移住・定住コンシ



エルジュという、市役所職員以外の人を採用し、かなりマスコミでも取り上げられ、とてもいい成果を上げていると思うが、このような方法が県内各市町村にも波及し、それが移住につながればいいなと思っている。

( 榎田委員 )

私自身、広く地域のことを見据えた活動というものを、今のところそこまではしていない。今、私の会社は織物業を営んでいるので、その織物業と、あとプラスその周りの活動を考えてみた。織物や地場産業などの話が言われているが、県内の方と話していても「ああ、そういう織物やっていたんだ」ということが多く、これが私の地元でも、知らない人が実は多いという現状がある。

先ほど辻村委員が、山梨に来て初めて知った例を話された。知ってもらえればまだ良い方だが、知らない人が非常に多い。なぜだろうかといろいろ考えていると、やはり山梨県の県民性なのか、自分たちのことをPRするのが下手なのかなと思われる。良いものを作っている、「そんなの全然良くないよ」ということを平気で言ってしまうたり、やはりそういう点からも知ってもらえない。

私は今、織物を知ってもらう活動を仲間とやり始めて、もう7年、8年ぐらいになるが、やはり知ってもらうことで少しずつ人の見方が変わってきていると思う。それには、大人だけでなく、子どもに知ってもらうということも、非常に重要だと思っていて、やはり子育て、人材育成という点から考えても、地元のいい物、すばらしいところを、学校教育の中でも取り入れ考えていただきたい。ただ、先ほども申し上げたが、地元山梨県の人が言うと、どうしても魅力を100%伝えることが多分難しい。

そこで注目しているのは、例えば地域おこし協力隊のような県外の方たちの活動である。私の会社は西桂町という、山梨県内でも本当に小さい町であり、まだ十分な活動はできていないが、隣の富士吉田市の状況を見てみると、地域おこし協力隊の方がそのまま定住し、自分たちで事業を始めたりしている。そして、その中には、学生の教育ということにポイントを置いて、事業を立ち上げている方もいるので、そういった外部の方から、地元のいい物を発信してもらおう。それを学生に伝えてもらうことで、多分子どもたちの心に素直に入ってくるのではないかと思う。そんな気持ちの地盤を作っておくことが、例えば転出した時にも、山梨に戻ってこようという気持ちが起こりやすくなるのではないかと思う。

それと、先ほど土屋委員もおっしゃっていたが、外で勉強して帰ってきた人のほうが、どうしても県内にだけいるよりも見る目が広くなると思うので、山梨に戻って来やすい地盤を作り、それと県内の魅力を発信することで、さらに戻って来やすくする。山梨での就職先を考えた時に、我々の織物業界で見ると、わりと家族経営の会社が多かったりする。家族経営ということで、なかなか外部の人を入れて仕事をするのが少なかったのも、やはり雇用に対するハードルが非常に高くなっていると思う。そこで、家族経営の会社などで人を雇用する際のサポートというものがあると、会社も戻って来た人を雇用しやすい。やはり雇用体系は非常に大事だと思うので、そういうところをサポートしながら、さらに、技術や山梨での暮らしやすさということを考えていけばいいのではないかと思った。

(萩原委員)

全体的によく頑張っているという印象を持っている。ただ、おそらくこれは山梨県だけではなく、山梨県と同じような環境に置かれている自治体も、具体的な数字は把握していないが頑張っているのだろうと思う。

ただ問題は、これから先も含め、今まで何をやってきて、これからは具体的にどういうことを続けていくのかということだと思う。事業というのは何でもそうだが、思い切って施策を実行するのが大切だと思う。それらが実ってきて、今、こういう状況になってきているのだろうと思うが、一方で、やってきたことの成果について反省をしながら、やめるということもまた一つ大きな決断と思う。そういうところを、一体どこに見いだすのかという論議を、おそらくどこかの機会では必要になってくるのかなと思いながら先ほどの話を聞いていた。

例えば、雇用のところで見ると、確かに1,480名ということで大幅な伸びを記録している。全国的にも雇用環境がアップしているからだろう。しかし、この1,480名の内訳は、一体どうなっているのだろう。私も職業柄大変気になる。男女の比や、年齢構成はどうなっているか。あるいは産業構造はどうなっているか。そういうところを少し細かく、深く分析をしていくことが必要だと思う。

これは、どの部分にも同じように繋がってくると思う。例えば、二つ目に人材や人の流れという項目があった。転出が昨年より大幅に改善したと説明いただき、確かにそうになっているが、なぜ改善したのか。何をしたのか。あるいは、何が良かったのかというところが非常に気になる。

それから転出の部分では、特に20歳から24歳のところが非常に多く転出してしまっている。女性も非常に多い。これは何故だろう。ひょっとしたら1,480名の雇用の拡大のところも、女性の雇用はそれほど拡大できていないのではないか。あるいは若者の雇用はどうなっているのか、というところに繋がってくるのではないかなと思う。

そういった部分の関連性を接着剤のように貼り付けていって、次のアクションにつなげていく。そのアクションは、ひょっとしたら先ほど少し説明がありました今後の重点取り組み分野の に繋がっているのかもしれない。ただ、具体的な中身について私自身がよく知らないので、そういう疑問が出てきた。

それから、先ほども話が出ていたが、定期的に経営者団体の方々と意見交換をしていると、県内の経営者の方々が口をそろえて言うのは、「将来、一体私の会社はどうなってしまうだろう」ということ。要するに、若手がいないということである。いろいろと話を聞いてみると、先ほども話に出ていたが、山梨県にはこんなにいい企業があり、こんなに高い技術を持っているのに、学生や若い人たちは知らない。ましてや外からは知るすべもないという、そんな話をよく聞く。

これは、一つの企業が一生懸命頑張っても、情報発信というのは限られてしまう。これは、やはり色々な媒体、行政も使って発信していかないといけないと思うし、それと同じことが、山梨の住みやすさ、良さということにも表れてくると思う。やはり仕事をするという点において、住むということは基本であるから、これをないがし

るにしたら何もできない。山梨の良さを知ってもらうためには、転入とか転出とかという問題もちろんあるが、やはり一度は山梨県に来ていただき、県内を見てもらうことが大切だと思う。一度も山梨に来たことがない人が、果たして山梨を就職先を選ぶだろうかという、極めて疑問である。そういう意味では、人の流れ、人材、雇用など全て繋がるが、さまざまな媒体を使っていろいろなところから情報発信する。何しろ知ってもらい、見てもらい、経験をしてもらう。これに尽きるのかなと思う。

(河村委員)

私は機械電子の業界において、今、とても景気がよく、好調な状況のため、人材不足という点では常に業界団体の間では話題になっている。基本的に男性がメインに活躍している職場が多い。それでも同業者たちは、女性の人材をととても求めている。だが女性にとって製造業は、余り求める職場になっていないようなので、この辺りの周知が私たちの業界としては、まだまだ不足しているのかなと思っている。

機械電子の大企業が県内に何社かあるが、それを支えているのは多くある中小企業の会社である。多分そういう協力会社がなければ、大企業たちも立ち行かないのではないかという現状があるかと思う。なので、近くにすごい会社がたくさんある、それに携われる仕事ができるということを知るといことは、もっと大切なことだろうなと思っている。

我が社の事例で申しあげると、県内工業系高校の新卒者を1名採用した。しかしそれは、こちらが募集した訳ではなく、逆指名をいただいた形であった。何故そうなったかということ、彼は新聞の小さな切り抜きを学校の就職支援の先生に持っていき、僕はこの会社に就職したいのだと言ったとのことで、先生から連絡いただいた。面接の際に、どうしてうちに来たいと思ったのかと尋ねると、高校でインターンシップがあり、大きな企業に行ったとのこと。そこでは毎日、多分3日間位の研修だと思うが、毎日同じことをしたそうである。周りの先輩を見ても、同じことを淡々と口も利かずにやっていて、それは自分には合わないと思ったとのこと。それなら小さな会社に就職して、一から十まで技術を身に付けて仕事をしたいと、そう思ってうちを志望してくれたそうである。その彼は、今3年経ったけれども、本当に素晴らしい戦力になっている。彼が、少し人と変わった性質だったのかもしれないが、そのような生きがいを見つけることも、また一つの選択肢ということである。今回は彼自身が見つけたが、そんな選択肢もあるんだということ、教育の中で指導してもらえると、もう少し中小企業に目が向き、雇用がもっと生まれるのではないかなと思う。どこの企業も、今話があったが、若手を採用したい、女性も採用したいと望んでいる。やはりそこにミスマッチがあると感じているので、何か手が打てればいいかなと思っている。

(望月委員)

私も、一つの小さい町だが、身延町を任されていて、総合戦略にかかる施策を一生懸命今進めている。今日は後藤知事さんや、私も県庁にいてかつては先輩でもあった県の皆さんがこちらにいるけれども、本当に苦労しているんだろうなと思う。

私の町は人口1万2,600人ぐらい、面積301平方キロぐらいであるが、県の

方々は県全体を見て、例えば昭和町のように人口が増えている所もあれば、丹波山村、小菅村等のように1,000人を切っているような町村まで含めた中での施策を進めていると思う。

身延町も、7月1日現在で高齢化比率がもう43.6パーセント。山梨県でも4番目の高齢化の町である。毎日、新聞を見ると、まずはお誕生を見ます。次に結婚を見ます。お誕生・結婚はほとんど出ない。ただおくやみ欄はいつも名前が上がって、毎月の広報なんかを見ると、おくやみのところに20何人とか30人。そして出産のところには4から5人。そういうことが毎日続いているということで、弱ったなとは思っている。しかし、私がよく町民に言うのは、身延町では人口減少は止められない。これははっきり言っている。人口は間もなく1万人を切るよと。ただ1万人を切ったからと言って諦めていたら、社人研が2060年、約3,600人という推定を身延町で出したけれども、そうなってしまいますということを言っている。しかし、元気な町ではいられるじゃないかと。元気な町でいれば、そこに住んでいる町民が幸せとか活力を感じられれば、きっと転出する人も1人減り、2人減り、帰ってくる人も増える。また、今、身延山久遠寺、下部温泉という、山梨県では一応名の通った観光地、全国的にも名が通っているが、実は今までの観光に依存している傾向が強かった。ただ世の中の人口が減っている以上は、観光客はなかなか増えない。今、富士北麓が増えているのはおそらく外国人が多いのではないかなと思う。

それで、今、私が考えるのは、かつて各地にあった、そんなこと言ったら失礼であるけれど既存の観光施設だけに依存しないこと。今、日本一の、例えばしだれ桜の里づくりということで、身延町を日本一のしだれ桜の里にしている。県のクラフトパークをお借りして、今、5千本のしだれ桜を1か所に植えています。しだれ桜5千本っておそらく日本にはないと思う。これを今後町内に広げていって、何しろ日本一。やはり日本一という言葉は、いずれ全国に響き渡るし、日本一の桜であることは世界一の桜にもなるから、ギネスにも載せてみたいなと思っているし、そういう中で新たな観光資源というのを、今、作ること必死になってやっている。この桜、実は今年1月、2月に植えた桜がもう既に開花した。私はリニアはもっと先の話であるから、身延町にとって中部横断自動車道というのは直近の一番大きな要素を占めている。3年後の全線開通、それはチャンスだと思う。しだれ桜を昨年度、今年度で5千本植えるつもりでいる。それがまた3年後になると木も大きくなるから、5千本が花盛り。そうするとここに来た時にもう既に迎え入れる体制が整えられる。さらに、今地域を子どもたちに好きになってもらうための施策を進めている。例えば小学校で言えば、身延町全体の歴史とか、伝統などを分かってもらうための社会科副読本を作って、もう今発注している。それを子どもたちに配って、子どもたちに身延をよく知っていただく。それと、県立大学の協力を得まして、身延高校と高大連携をやっていただいて、その研究成果を町に提案していただき、良いものはすぐ施策にして学校へお返しする。そうすると、その子どもたちもそれについて、自分たちでこの町をどうしようかと考えたことが、町がちゃんと事業化してくれた。これこそ町を好きになる一つの手法だと思ってる。

今日、身延町の施策を言うと、この会議は時間が無くなってしまうのでこのくらい

にしておくけれども、私の身延町が山梨県に置かれている立場は、山梨県が日本に置かれている立場と似ているのかなとも思っているので、今日はいろんな委員の皆様がいらっしゃるの、実は私は勉強のつもりで今日は委員として参加させていただいている。

(後藤知事)

ありがとうございます。

Uターン対策等について、県でも今年度から実施をしている施策等があるが、委員の先生方11名から共通で御意見いただいた部分で、現在産業労働部が中心に行っている施策について、佐野産業労働部長より簡潔に説明をお願いしたい。

(佐野産業労働部長)

幾つか御意見を頂戴いたしました。

まず人手不足、企業からのこともあるのではないかというお話については、製造業の分野では、医療機器、燃料電池などは産学官連携で講座を開く中で、企業の中での人材育成にも取り組んでいるところである。

また、同じように産学官連携でインターンシップの協議会を設置して、企業と学生とのマッチングについても進めているところである。

それと、先ほど中小企業の専門家の人材を大都市からという話をいただいたが、専門家の人材について、県から企業の一定期間の試用就業については、費用の一部を助成する制度を設け、雇用の確保、人材の確保についても推進しているところである。

あと、非正規雇用の処遇改善等の話については、今年の3月、国の働き方改革の実施計画の策定によって、現在、労働基準法の改正に上げる準備を進めているところであり、県内企業において同一労働同一賃金など、非正規雇用の処遇改善に取り組んでいく必要があると考えていて、県としては、今年度から新たに働き方改革アドバイザーを設置し、県内企業の抱えるこれらの課題について対応することとしている。

また、企業の経営者の皆様に働き方改革のセミナーを開催し、それらについても企業に理解を求める予定になっている。

(後藤知事)

ふるさと、郷土愛のことについて、古屋委員からお話があった。他にも、メリハリのある、平均値だけではない積極的なPRの必要性や、山梨県の歌を歌っているか、歌える子どもたちはいないのではないかと3点の指摘について、若林教育次長より回答をお願いしたい。

(若林教育次長)

ただいま御指摘のありました3つの点についてお答えさせていただきたい。

最初に、山梨を知る、地域を知るという取り組みであるが、これについては新たに「ふるさと山梨」という冊子を小中学生向けに各1万部作成し、これを基にした学習を社会科や総合的な学習の時間、授業の中で取り入れるということで積極的に進めて

いきたいと思っている。こうしたことで、まず地域を知り、地域を愛する子どもたちが増えていくことが望ましいと考えているところである。これは引き続き進めていきたい。

それと合わせて、地域にたくさんの人材がいる。高齢者もいれば、先ほど御指摘のあったように、独特の技能を持った方がいる。こういう方を講師として学校へお迎えし、また授業をしていただく、こういった機会も設けてまいりたいと考えている。

それから次に、メリハリの効いた学力向上、あるいは体力向上の取り組みということであるが、御指摘のとおり私どもも先進県である福井県や秋田県などを訪問し、先進事例を調査している。そういった取り組みの中で生まれてきたのが、家庭学習が大事ではないかということであり、これまで山梨県では、なかなか定型化されたものがなかったのではないかとこの点である。そこで新たに「家庭学習のすすめ」という冊子を作り、取り組みを進めているところである。成果が表れるまでには、時間がかかるかもしれないが、こうした着実な取り組みを進める中で、学力向上につなげていきたいと考えている。

最後に愛唱歌の関係であるが、確かに私どもの年代は唱歌できるが、ただいまの御指摘を受け止め、また検討させていただきたい。

ありがとうございました。

(後藤知事)

ありがとうございます。

市川総合政策部長、全体的にお話しいただきたい。

(市川総合政策部長)

さまざまな貴重な御提言をいただきました。

私どもも、若者の転出抑制等々については、本年度から本格的に取り組んでいる状況である。

先ほどから話にあります、まず山梨県に住む若者に、自分たちの住む所の魅力を知ってもらうことが基本であり大切である。そこで今年度、各方面の先生方をお招きし、どのような形で地域に住む子どもたちに、山梨の魅力を知ってもらうかということについて検討いただいているところである。

それと、先ほど岡本委員から御指摘いただいたとおり、例えば成人式といった機会も捉えて情報提供をすることも検討していきたいと考えている。

私どもが、なかなか気がつかない点、まさに移住された方々の視点というのが大事だということも、何名かの先生方から指摘をいただいたところである。

山梨県への移住についても、県内出身者のほうが山梨県の魅力を知らないというお話をいろいろと伺った。いろいろな御意見をいただく中で、必ずしも人口を増やすということだけでなく、山梨県の魅力を外部から指摘していただく、発信していただくということも含め、これまで以上に移住促進ということについても力を入れていきたいと考えている。

(後藤知事)

ありがとうございます。

6月から柵木副知事を中心に、県内大学の留学生を中心に意見交換をさせてもらっている。その事例紹介と併せて、田中委員、竹内委員からお話があった外国人の方々の人材登用、また留学生を増やし産業と連携をという視点についても報告をお願いしたい。

(柵木副知事)

貴重な意見ありがとうございました。

現在、県内の大学で留学生を受け入れているところに対し、留学生の実態を把握するという事で、実態調査、それからアンケート調査、さらに意見交換を通じ、留学生の方々が県内に就職する意向、あるいはこういう条件だったら県内に就職したいというような実態を把握しようとしている。

これまで実施した山梨学院大学、あるいは山梨大学での意見交換の中では、やはり山梨はいい所なので住みたい、就職したいと思うが、実際に山梨での就職というのは情報が余りないというような話があった。また、他の大学、ユニタス日本語学校にも聞きましたら、就労ビザを取らなければいけないが、留学ビザで来ているので、就労ビザを取る前に就職はできないと言って断られる。就労ビザを取得してから来るように言われる。留学生にそういうことはできないので、その辺りの課題が少し見えてきたところなので、そういった現状を把握しつつ、今後、どういう形で留学生が県内で就職、あるいは定住できるのかというのを検討していきたい。

(後藤知事)

これからの課題について色々な御意見をいただいた。

また、この効果検証というのは、何人かの委員の先生から御指摘があったように、少しずつ良くなっているという評価をいただいた上で、さらに量的な分析から質的な部分について、いただいた御意見を参考にさせていただきながら、これからの指標、また事業の施策の充実という形で努めてまいりたい。

時間も限られているので、後ほど私から全体的にコメントさせていただくが、二つ目の議題であるリニア開業効果の全県波及という点について、まず資料に基づいて幾つか報告をさせていただきながら、その後、委員の先生方から御意見、御提言を賜りたい。

今年度4月から、全庁的な組織として発足したりニア環境未来都市推進室の石寺室長から、まず資料に基づいて説明をお願いしたい。

## (2) リニア開業効果の全県波及に向けた取り組みについて

議題(2)について、資料により事務局から説明し、次のとおり意見交換を行った。

説明：石寺リニア環境未来都市推進室長

(後藤知事)

ありがとうございます。

それでは早速、委員の先生方から御意見、御質問、また御提言をお願いしたい。

(土屋委員)

先ほど申したとおり、私は関西の出身なので、実はリニアの開業を首を長くして待ちわびている一人である。

具体的に、距離感、時間の短縮ということで考えると、東京品川まで30分ということであるが、例えば私の住んでいる塩山からリニアの駅まで車で45分。それから30分で品川に着くとすれば、塩山駅からかいじに乗ってもたいして変わらないということであるが、仮にこれが名古屋とか大阪ということになると、今、公共交通機関で最も早く行ける方法で、便数が一番多い方法というのは新横浜経由であるが、それを考えると本当に時間短縮であるので、私はまずリニアの計画、それから地域の開発ということについては、もちろん時間もあるし、この時代なので予算が限られていることから、できるだけメリハリをつけて、必要なところに必要なものを。それから、それほど効果が見いだせないところについては勇気を持ってカットしていくような、メリハリのある予算の取り方とか開発も必要なのではないかと思う。

その上で、関西圏をやはり意識するのがいいのかなということで、関西からの距離、それから利便性の良さということで、移住者、それから観光客等の誘致ということに非常に効果があるような気がしている。

もう一つ、地域の主要都市から離れた新幹線の駅、今回はリニアの駅にあたるが、こういうのは、あちこちに多分あると思う。大都市では新大阪とか、新横浜とか、それから最近、田舎の方と言うと何だが、地方であれば新函館北斗とか、今まで何も無い所に交通の線を引く都合上、そこに駅を造ったということと言うと、新神戸という駅もそうである。今の新神戸の現状というのは、非常に寂しいものである。三宮という神戸の中心地からバスで30分のところにあり、ホテルも建てた。それからショッピングセンターもできた。その近くには元々異人館という非常に有名な観光地もあるのだが、現在の新神戸駅の現状はと言うと、ただの交通の要所になっている。だから、あれもこれもと言って欲張ってしまって、10年後、20年後に廃墟が残るということは非常に望ましくないと思うので、くれぐれもメリハリのある投資というか、開発を、今までの失敗例を参考にしながら行えばいいのかなと感じている。

(辻村委員)

『君の名は。』という映画が大ヒットしたけれども、ヒットは都会生活への憧れと、それとは違った地方の生活への憧憬を結び付けたからだと思う。一晩寝て起きたら別のところにおいて、別の人生がある。それができるのが、リニアの山梨県駅だと思う。東京に住んでいる人が、あっという間に山梨で自然を満喫した生活ができる。

当地に来てから何故かと思っているのは、山梨県駅から甲府駅の間は、一般道を通って行くことが前提になっていることである。山梨県駅と甲府駅の間、これを空港で、飛行機が停まったスポットと旅客ターミナルに例えてみる。空港では、その間は専用



のリムジンバスで結ばれている。羽田空港は広いので、ターミナルに着くまでに10分くらいかかることもある。それと同じように、山梨県駅から専用のBRTに乗ると10数分で、もうそこは、山梨県のメインターミナルの甲府駅ということであれば、何よりも定時性が確保できる。専用道路を走るBRT、それも無人のBRTにチャレンジしていただいて、甲府駅まで12分とか15分未満で、ノンストップで結ぶというのを是非考えていただけないか。これが一般道だと渋滞すると甲府駅まで何分かかかるか分からなくて、甲府発の電車を取り逃すということもあると思う。せっかくの時間短縮を浪費しないよう、定時性を確保した甲府駅までのアクセスというのは大事ではないかと思っている。

(田中委員)

私は観光客目線で考えてみた。観光で地方へフラッと行った時は、2・3県は寄ってみたいと思っている。京都であればたくさん見る所があるのだろうが、例えば九州の佐賀とか、そういう場所であればもう少し、折角遠くに行くなら2・3県回りたいたいと思う。

以前、知事の話の中に中部横断自動車道の4県連携の話があったが、甲府、山梨だけでなく、他の県も回って、何か所も楽しめるような、他県とのアクセス連携が図られたリニア整備となれば良いと思います。山梨に来た人が、次は山梨プラス他の県の周遊など、リピートしてもらえようような方法も良いと思う。また海外など、遠方から来た人にも、山梨周辺の県と一緒に楽しめるような選択肢がたくさんあると、より多くの方が様々な滞在の仕方を楽しんでもらえると思うので、そういった全体的な整備があればいいかなと思う。

(槇田委員)

リニアのできる駅が、郡内の人間から見ると、あまり便利な場所ではないな、というのが正直な感想である。今回意見を求められた時もすぐに思い浮かばず、自分自身もこれまでリニアの駅というものを、正直把握できていなかった部分がある。しかし、今回改めて考えてみて、東京から郡内へのアクセスということを考えると、今の既存の交通網の電車やバスを使ったほうが便利だと思ってしまいが、新たに関西方面からのアクセスを考えれば、確かにかなり便利になる。

30分圏域の地域を見てみると、河口湖、大石辺りまでは入っている。今、あの辺りには、かなり多くの観光客、海外の方が来ている現状を見ており、また、景観もとてもいい場所である。そういう所に観光客を引っ張ってきて、そこからさらに郡内方面にどう引っ張れるかというのが、私は大事ではないかと考えている。今は物づくりがメインであるが、物づくりをしている様子を見てもらう活動もし始めている。そういったところも絡めて、アクセスが良くなることで、東京からだけでなく関西からのお客様にも、山梨県の魅力を見て知ってもらえるよう、心がけていけばいいのではないかと思った。

(古屋委員)

私もアクセスが一番気になった。新聞を読んでいると、専用道路を使ったバスという話が出ているようであるが、それと同時に私は、モノレールなどが早く目的地に着くことができ良いのではないかと考えている。県内の他の地域にいる方は甲府駅までは電車で来てもらい、そこからはモノレールを使えば、たった5分でリニア駅に行けるような形を取れば、本当は一番良いのではないかと考えていた。

それとは別に、魅力的なライフスタイルの提案ということで、少し気になることがあったのでお聞きしたい。トップクラスの子育て支援の中には、妊娠・出産の支援ということが挙げられるが、10年後という核家族化が今よりもっと進んでいると思う。そして、安心して子育てができる環境を作らなければいけないが、まずお産ができる病院が必要である。山梨県では、今はほとんど甲府市に集中しているように感じる。そんな中、先日山梨市で公設民営の産婦人科がオープンしたと聞いた。もっと気軽に病院に通い、産むことができる、地元の産婦人科を増やすことも必要なのではないかと考えている。

あとは産前産後ケア。満足度は本当に高いと思うし、核家族化が進む時代には、特にこの産前産後ケアセンターは必要だと思う。山梨ではここを利用することが、まだ贅沢だと思っている人が多いように感じる。そこで、先入観を無くすためにもう少し利用者の声を使って、センターのPRしたほうが良いと思う。

(萩原委員)

リニアのことを考えた時に、いろいろな見方があると思うが、私はリスクと差別化という観点で見ると必要があると思っている。

確かにリニアというのは、山梨にとってもものすごく明るい話題である。一体山梨の10年後、20年後は、どうなっているのだろうかということであるが、一方で山梨から、交通の便が良くなることで、出ていく人もいるのではないか。そういうことを考えると、今、この山梨に住んでいる人は、一体リニアができることについて、どのように考えるだろうか。便利になる、格段に夢がある。しかし、素晴らしいことだというものには、必ずリスクが伴って、マイナスに振れることも十分考えておかなければいけないと思う。

差別化というところでは、リニアの通る東京から関西までの間に、幾つか地点がある。そこで山梨は一体どのように、どの道を通っていくのだろうかということ、これは差別化につながる。そこが他と全く同じような施策をしているのであれば、おそらく山梨のポジションは結構厳しいと思っている。だとすれば、例えば、暮らしとか、子育てだとか、山梨の自然あふれる環境、そういったものに目を向け、そこに対して他の都府県との差別化を図っていくというのも、一つの見方としてあると思う。

これから日本は、そうはならないと思いたいが、今現在残念ながら人口減少の道を歩んでいる。少子高齢化の道も歩んでいる。これに何とか歯止めをかけなければいけないというのが先ほどの論議だったと思う。現状では、その状況にまだあるが、働き方改革ということも並べているので、これから働き方がどのように変わっていくのだろうか。おそらく、今よりも生活に目を向けた働き方になっていくのではないかと、いう所もいろいろ考えると、やはりリスクと差別化については念頭に置いて、リニアの

山梨の未来づくりということを考えていかなければいけないだろうと思う。

(竹内委員)

リニアに関しては、3ページの未来都市の創造の、近郊のところで、今の定住・産業・エネルギー・景観・その他になっているが、エネルギーというのはある種、手段であって目的ではないと思う。結局のところ、どうやって賑わいのある町を、新しいリニアの近郊につくっていくのかということだと思うが、先ほども、何と言うか、取捨選択というお話があったけれども、私自身なかなかイメージが湧きにくいですが、リニアの効果は、ここに書いてあるとおり圧倒的な時間距離の短縮、それに伴って人々の交流や活動が拡大するということだろう。そうだとすると、一番しっくりくるのは、ここで言うところの定住である。定住に関しては25分で品川までつながるのであれば、従来は大田区とか、あるいは神奈川県に住んでいたような人たちが、山梨にというのも十分選択肢に入ってくる。しかも恐らくは、実際、民間の会社が住宅を売り出すとなれば、月々のローンがこのくらい、それから定期代がこのくらい、同じ面積の自宅を例えば大田区に持った場合とこんなに違うんだよと。非常に分かりやすいアピールがあり、プラスアルファ山梨の自然があるのだということなので、ここはすごくアピールするところである。

他方で、一つ産業に関しては、あえてリニアの駅の近郊にこのエリアを設ける、あるいはそこにどこまで力を入れるかというのは、個人的には少ししっくりこないところである。恐らくは、企業が移転を考えた時に、時間的な距離というものはあるが、人の距離だけではなく、物流の問題とか、その他もろもろ、人手不足とかそういうことを含めてある程度考えると、もしかすると、これから具体的なプランを練っていく時に、実際にどれくらいニーズが見えているのかという調査を行った上で、そのエリアの配分みたいなものは考える必要があるのではないか。

それからもう一つは、先ほどから出ているアクセスのところであるが、LRTにせよ、BRTにせよ、恐らくは費用対効果というところをどうしても考えなければいけない。その結果として今、バスネットワークと、このように書いてあるわけだろう。バスネットワークの場合、最低限やって欲しいと思うのは、今、甲府の南口でバスが現在どこにいるか表示するシステムの導入である。一番利用者にとって心配なのは、自分が乗ろうと思ったバスがもういなくなっている。いつまでも来ないけど、もしかしたら自分は乗り過ごしてしまったのではないかということだろう。新システムは、今はまだ駅前にしかないと思うが、これを少なくとも要所要所、広く全体に設置すれば、バス交通の弱点部分を若干は補えるかなと思う。

(河村委員)

私からは観光交流、交通について、思ったことを話させていただきたい。おもてなしという点で、簡単にできそうだと思っていることは、タクシー運転手さんに山梨愛を深めてもらうこととか、例えばおすすめ観光スポットを簡単にご案内できたり、連れて行けたり、他にも美味しいお店を紹介できたり、そういうことを自然と、さらりと、この開業に向けてできたらいいかなと思う。今は多分、甲府駅でタクシーに乗せ

ても家に帰ることが主であるが、観光客が来てどこそこでおいしいものを食べたいと言ったときに、さらりと連れて行ってくれる人は少ないように思う。

京都などに行くと、本当にそういうところはきちんとしていて、というより商売でもあるから、大変いいところに連れて行ってくれる。人力車の車夫さんはとてもすばらしく、本当に観光客が少ない場所に連れて行ってきて、写真まで撮ってくれる。何というか、とても得した気分になるような観光をさせてくれる。是非山梨のタクシー運転手さんが、そんな観光大使になってくれたら良いのではないか。せっかく素晴らしい景色うあ、国宝のお寺などもたくさんあるので、そういう所は是非紹介してもらいたいと考えている。きっとお金をそれほどかけずにできる取り組みなのではないか。

#### (望月委員)

どうしても私は身延町という所にいるので、甲府盆地から離れた立場でものを申ししてしまうが、やはり交通の利便性の高いバス交通ネットワークの構築。おそらくここに書いてあるのは周辺、甲府市とか、主要なところのイメージが強いのかと思うが、我々とすれば、例えばさっき言った身延山久遠寺への直行バスみたいなものも、直行でなくてもいいが、向かう観光客向けのそういうバスを走らせてもらうとか、あと町民が逆にリニアを使えるようなバス。ただ身延から逆にこっちに乗ってくるにしても大変だが、今リニア交通局のほうで既に進めている、市町村が運行するバスと、あと県の持ち分で走らせるバス。それをうまく連携して、そしてできるだけ地方の町村もリニアのところへ容易に来られるようなネットワークを是非作ってもらえればと思っている。

#### (中込委員)

私は、農業団体の職員という立場から、農業分野について言わせていただくと、今、北陸新幹線と世界農業遺産に認定されている能登の棚田とのコラボレーションで多くの旅行会社がツアーを組んで、またそこで作られているお米を知ってもらって、食してもらってという流れができています。なので、山梨においても、リニア開通を機に山梨の農業が生み出す美しい景観や農産物のすばらしさを広く全国に知ってもらいたいと思っている。

その時に、先ほどから出ているが、やはりリニア駅からの交通網の整備というところが課題だと思う。東京から30分で来たけれど、例えば世界農業遺産を目指す峡東地域へのアクセスは1時間以上かかるとなると、やっぱり行くのを躊躇してしまうので、やはり30分アクセス圏域の拡大とか、あと県内の観光地を巡る周遊バスの活用なども考えてもらえたら良いと思う。

#### (岡本委員)

私からは総論的なこととして2点申し上げたい。

1点目は、先ほどから言っているが、オール山梨でということである。2点目は、魅力の発見と発信をということである。

1点目のオール山梨でということであるが、リニア開業効果を全県に波及させるためには、民間の企業、団体、県民の方から、幅広く意見を出してもらうことが必要だと思う。もし県民の多くが、リニアを造るのは行政が考えることだから関係ないと思っていると、決していい結果にならない。ついては、より多くの県民、企業、団体が、是非リニア開業効果を全県に波及させるんだという意識を持つ必要がある。今日もこれだけのメンバーで、これだけの時間で、これだけの意見が出る訳だから、県内にはいろいろな知恵があると思う。それを生かさない手はないので、そういうアイデアがどんどん出るような仕組みづくりが必要ではないかと思っている。

どうすればいいかということであるが、例えば、もし今現在山梨県に出されているいろいろな団体からのアイデアとか、こういう場での意見等があるのであれば、許されるのであれば、そういうことを「見える化」して、県民の方が同じ土俵で議論ができて、それだったらこういうのがと、どんどんアドオンしていくような場、仕組みをつくったらどうかと思う。いずれにしても、県民全体の意識を高めて、より効果的かつ具体的なアイデアが見やすい土壌とか、雰囲気とか、そういうことの仕組みづくりというところが必要かと思う。それが1点目である。

2点目は、魅力の発見と発信をということであるが、やはり県外の方が山梨の駅で降りてもらうためには、それなりの理由が必要だと思う。したがって、リニアの開業よりかなり前の段階で、山梨の魅力等を十分に発見し、掘り起こして発信しておくことが必要である。「リニアが開通したら、もっと短時間で山梨に行けるのに」という思いをかなり前から醸成しておくぐらいのタイムスケジュールでやらないと、なかなか難しいかなと思っている。そのためには、やはり山梨の魅力というのを発見して発信するということが重要である。

まず一つは、先ほども出ていたが、山梨に住んでいる方が、山梨って実はすばらしい所だということ、リニアを契機に再認識するきっかけになればいいと思っている。そうすれば、「これだけいい所だからリニア開通というビッグチャンスを生かさない手はない」と、みんなが思えるようになれば、より多くの方が考えるようになると思う。ただ、先ほども出ていたが、私も山梨県人だが、ずっと山梨に住んでいると、都会の人が感動することでも当たり前すぎて、目に魅力として、宝物として映らないということがある。したがって、やはり県外から山梨に移住してきた人の目に映っている、山梨の魅力をできるだけ短期間で早期に集めておいて、そういうものをまず外に発信すると同時に、インナープロモーション、県内にどんどん発信して、子ども大人も住んでいる方々が、山梨ってやっぱりいい所だよねという魅力をどんどん再発見していく作業を、並行して着手したほうがいいと思う。

(後藤知事)

ありがとうございました。

バス交通ネットワーク等々、課題の御指摘がありました。まずはリニア交通局長から現状のBRTを含め、経緯と併せて少し報告をお願いしたい。

(岡リニア交通局長)

それではBRT等に関する、バス交通ネットワーク、特に甲府駅、リニア新駅をいかに早く結ぶかということについて簡単に説明させていただきたい。

委員の皆様の御意見にもあったように、当初はモノレールがいいんじゃないか、LRT、いわゆる路面電車がいいんじゃないか。いやBRTがいいんじゃないかと。さまざまな議論が、これは市内だけでなく、経済団体等々において活発になされてきた経緯がある。そうした中で、開業当初の利用者数の見込み、そしてそこから出てくる採算性、将来にわたり利用者がどんどん増えていった時の発展性。こういったものをトータルで、官民一体となり議論した結果、現時点での結論としては、新たなバス交通システムで結ぼうということになった。

とは言っても、御指摘のとおり、両駅を速達性、定時性を持ってしっかりと結ぶということは非常に重要である。これがなければリニアの魅力も半減してしまう。それを大前提として、まずは国道358号、いわゆる平和通りの交差点改良を行うなどによって、速達性、20分で結べるという見通しは確実にになった。そうした整備を開業までにしっかりやって、またグレードの高いバスの導入や新しいシステムの導入、こういったことも将来に向けていろいろ検討する中で、需要に応じ、また技術の発展に応じて、将来的にはバス専用レーン、優先レーンなどの交通基盤の整備とか、あとは御指摘のあった自動運転も、おそらく10年後には確立されているだろうと考えられる。そして、当然環境に優しい燃料電池バス、さまざまな最新技術の導入なども視野に入れ、この路線が県内のバス交通ネットワークの機関軸となるように検討整備を進めていく考えである。

(後藤知事)

総合政策部長、お願いします。

(市川総合政策部長)

御意見ありがとうございます。

リニア駅前整備については、点として考えている訳ではない。駅前については、半径4キロを駅近郊と捉え、ここに新たなまちづくりをする意気込みで取り組んでいるところである。先ほどリニアが開業した後の、マイナスの影響という話もいただいた。私も、魅力のあるまちづくりというものをしていくためには、どういったことができるかということ、建築、産業、様々な角度から、民間の方々を含めて一緒に議論をしていきたいと考えている。

そもそも、リニアが通った時のまちづくりについて、開通した時に全て完成しているとは考えていない。成長し続ける都市として、どう創っていくのかということを考えていきたい。そのためには、当然のことながら、私も行政だけでできる話ではないので、民間の方々、先ほど岡本委員からあった県民の方々の御意見などを幅広く伺いながら、誰もが住みたいと思えるようなまちづくりを進めていきたいと考えている。リニアの効果といったものが点だけでなく、点から線へ、線から面へ、山梨県全体で享受できるよう、まちづくりというのを、まさに百年の計として取り組んでいきたいと考えている。

(後藤知事)

ありがとうございます。

冒頭、1番目の協議でお話をさせていただいた「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の効果検証についても、2番目のリニア開業効果の全県波及に向けた取り組みと同様に、点ではなく山梨県全体で考える視点を当然持ち続けている。

特に、行政が実施するときは、目先だけでなく、少し先の部分と合わせた2つの大きな視点というものを持ちながら行わなければならない。竹内委員がおっしゃったように、ニーズについては、民間の方が入り込んでいただけるかどうかの問題となる。JR東海より、3年ほど前に2027年という数字が出ている。

今、私どもは、焦りながらも行政が着実に対応していかなければならない部分と、岡本委員のおっしゃったように、これを県民の皆さん方が自分たちの問題なのだという視点を併せ持ちながら対応していく部分が必要だと思う。

身延町含め、中部横断自動車道と環状道路が開通すれば、リニアのアクセス30分圏内がこれからもっともっと拡大をしていくし、塩山も決して45分圏域ではなくなる。笛吹八代スマートインターもできて、笛吹から塩山に行く交通の部分も変化してきたので、これからの基盤の変化をきちんと踏まえながら、さらに検討を深めていきたいと思っている。

今日、2番目の議題の1ページ目右側にある、10年後に完成しているだろうというのがこの赤い部分の環状道路の東部区間、北部区間である。他にも、長野県とはできるだけ早く完成をしたいと考えている中部横断自動車道の長坂以北の問題。中部横断自動車道の南部区間については、あと2年後に基本的には完成していく。高速道路の出口は、現在中央自動車道の東西の出口しかないが、今後中部横断自動車道の新清水へ抜ける静岡口、さらには須走・御殿場バイパスの4本目の出口も3年後ぐらいに具体化をしてくる。利便性、物流の効果は、リニア開業の以前にかなり固まっていることも踏まえ、官民の力を合わせていきたい。

そして、一番目の議事で、雇用や人材の部分でも御意見をいただいたが、東京や海外の人材や資本について、10年後、15年後を大きく視野に入れて対応を進めなければいけない。今、柵木副知事には、女性という視点と、海外の留学生、外国人人材の活用、という言い方がもし間違っていたらお許しいただきたいと思うが、そういう視点で、全体の取りまとめもお願いしている。

今日、各部局長が同席していることについて、是非新しい委員の先生方に御理解いただきたいのが、委員の先生方の意見を、これからの施策にできるだけ生かしたいという私の思いであり、また、このやまなし未来会議において、未来志向の建設的な御議論をいただきたいという、私の願いである。

今日いただいた全ての意見については、それぞれ整理をして、個別に御連絡したり、また資料等々事前に承っている部分もあるので、後ほど担当の部局長、また課長から、個別に御報告をさせていただきたい。

いずれにしても、今日は平成29年度の第1回目で、2期目の委員の先生方に御参加をいただいた、スタートの会である。外は大変暑くなっているので、是非お身体御

自愛いただきながら、それぞれの仕事、それぞれの地域の中での御活躍を心から御期待しながら、私の議長としての役割を終了させていただきたいと思う。

ありがとうございました。

(市川総合政策部長)

ありがとうございました。

ここで次回開催予定であるが、具体的な日程やテーマ等について、後日事務局から改めて御連絡をさせていただくので、よろしくお願い申し上げます。

## 5 . 閉会

司会：市川総合政策部長